

# 特集

## 【臨床編】 慢性前立腺炎と 下部尿路症状との新知見

辻村 晃

順天堂大学医学部附属浦安病院泌尿器科

**Key Words** 慢性前立腺炎様症状, NIH-CPSI, タダラフィル

慢性前立腺炎という診断名は臨床上しばしば用いられているものの、その実態は明確ではない。典型的な症状は、会陰部や下腹部、骨盤部に違和感、不快感、あるいは疼痛である。組織学的検討から、前立腺肥大症（benign prostatic hyperplasia；BPH）患者の前立腺組織内には少なからず炎症所見をともなっていると考えられている。組織学的な炎症所見と慢性前立腺炎様症状が相関することが知られている。内服治療で症状の緩和を試みるが、最近、BPHの第一選択となったタダラフィルは、前立腺の血流改善からこれらの症状緩和に役立つことが期待されている。

### はじめに

『男性下部尿路症状・前立腺肥大症診療ガイドライン』（2017年）によれば、下部尿路症状（lower urinary tract symptom；LUTS）における性差の主な原因は前立腺の存在であり、男性のLUTSは前立腺の影響から蓄尿症状に加えて、膀胱出口部閉塞による排尿症状や排尿後症状から成るとされている。前立腺肥大症（benign prostatic hyperplasia；BPH）は加齢につれて、その罹患率が上

昇するQOL疾患の代表である。薬物治療を受けている患者数は年々増加し、2014年には約51万名に達したという報告がある一方、60歳を超えると78%にLUTSを生じるものの、医療機関を受診するのは約8%に過ぎないことも知られている。BPH患者は、しばしば過活動膀胱（overactive bladder；OAB）症状や前立腺炎様症状を合併する。筆者らは以前、質問票を用いた検討で、113名のBPH患者のうち62名（55.9%）でOABを合併していることを報告した<sup>1)</sup>。

一方、前立腺炎については急性炎症であれば発

Akira Tsujimura（教授）